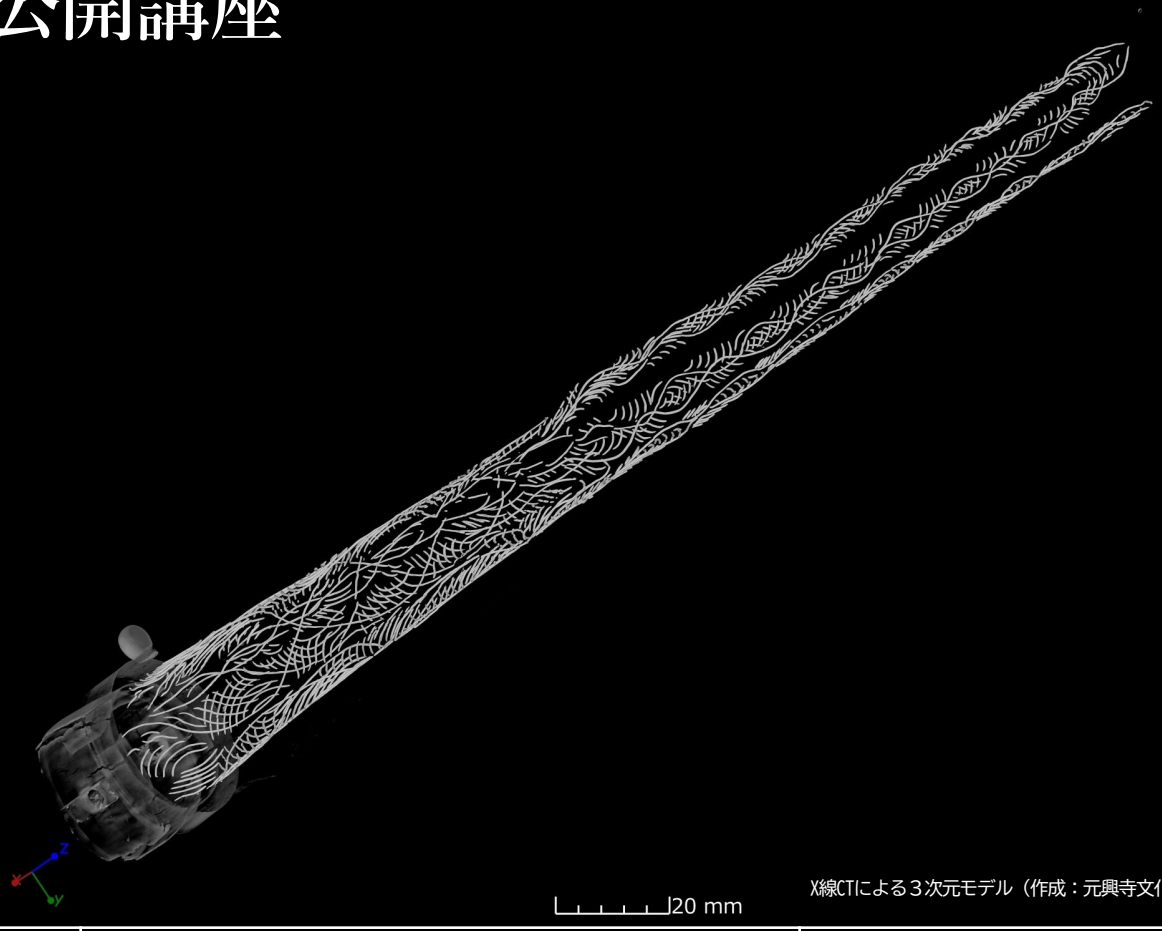
令和八年度　世界遺産

# 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 公開講座




X線CTによる３次元モデル（作成：元興寺文化財研究所）

| | テーマ | 講演日・場所 |
|---|---|---|
| 第１回 | 金銅製矛鞘から沖ノ島祭祀を考える | 令和８年１２月２０日（日）<br>13:30-16:30（13:00開場） |
| 第２回 | いま、世界遺産を考える②<br>世界遺産と歴史学<br>ー東アジアの歴史的コンテキストからー | 令和９年１月１６日（土）<br>13：30-15：00（13:00開場） |

主　催　：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

共　催　：九州国立博物館（第１回のみ）

会　場　：九州国立博物館ミュージアムホール（定員250名）〒818-0118 福岡県太宰府市石坂４丁目７-２

海の道むなかた館講義室（定員60名）　〒811-3504 福岡県宗像市深田588番地

申　込　：下記ＨＰから専用フォームにて要事前申込(先着順)。受講費は無料です。

開催日の14日前までに下記フォームからお申し込みください。

https://www.okinoshima-heritage.jp/

お申し込みはこちらから

問合先　：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

（事務局：福岡県文化局九博・世界遺産・文化施設課）

〒812-8577 福岡市博多区東公園7－7

TEL：092-643-3162 FAX ：092-643-3163

E-mail:sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp

# 第１回

## 金銅製矛鞘から沖ノ島祭祀を考える

世界遺産である沖ノ島（福岡県宗像市）から出土した「国宝金銅製矛鞘（こんどうせいほこさや）」は、古墳時代（６世紀後半～７世紀初頭）にヤマト王権が航海安全と交流の成就を祈る祭祀で捧げた貴重な奉献品です。最新のX線CT調査により鞘の内部にある鉄の矛の全面に鳳凰文様などの豪華な金象嵌（ぞうがん）が施されており、東アジア最高峰の優品である事が判明し、昨年、大きな話題となりました。

本講座では、自然科学分析による調査で何がわかったのか、また、この調査成果によって、沖ノ島祭祀の歴史的評価はどう変わるのか、専門家がわかりやすく解説します。

内　容：

１．講演

（１）「国宝　金銅製矛鞘と沖ノ島８号遺跡」
福嶋　真貴子（宗像大社文化局）

（２）「金銅製矛鞘の自然科学分析」
山口　繁生（元興寺文化財研究所）

（３）「金銅製矛鞘の学術的な意義」
水野　敏典（橿原考古学研究所）

２．パネルディスカッション

「金銅製矛鞘にみる沖ノ島祭祀の新知見」

司会
岡寺　未幾（福岡県文化局九博・世界遺産・文化施設課）

パネリスト
福嶋　真貴子
山口　繁生
水野　敏典

# 第２回

## いま、世界遺産を考える②

## 世界遺産と歴史学 - 東アジアの歴史的コンテキストから-

来年、登録10周年を迎える世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群。本遺産群の世界遺産登録や登録後の保存管理に、専門家の立場で関わってこられた先生に話を伺います。

歴史学の立場から、「世界遺産」とは何か？また、この貴重な遺産群を今後、どう活かして次世代に継承していくのか？

昨年度、同じテーマで行った講座を振り返りながら、一緒に考えます。

内　容：

１．講演

「世界遺産と歴史学　東アジアの歴史的コンテキストから」
佐藤　信（東京大学名誉教授）

２．質疑応答

「いま、世界遺産を考える」

鉄鉾象嵌全体図（作成：元興寺文化財研究所）